

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 川西町立吉島小学校

① 学習指導案

プログラム	No. 11 「地域景観プランナーになろう」
单元名 (全14時間)	「川西」じまんの「景観」を見つけよう
学習のねらい	「景観」について学び、自分たちの住む地域の好きな景観や自慢の景観を再発見し、他学年の児童や保護者、地域の方などにその良さを発信する活動を通して、川西町や吉島地区を愛する心を育む。
学習内容	1 山形県景観出前授業を授業参観で行うことを通して、景観について親子で理解する。 2 町内をめぐり、景観をとらえなおし、自慢の景観を探す。 3 見つけた自慢の景観を学習発表会の内容に入れて発表する。 4 自慢の景観をふくめた、川西町の自慢について調べ、他学年児童、地域の方などに知らせる。
参考資料	参考資料：県パンフレット「山形景観物語」
準備品	準備品：タブレット、電子黒板、写真用紙等
実施場所等	実施場所：教室、体育館、高畠町黒井堰遺跡、川西町虚空蔵山

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	・山形県景観出前講座を授業参観において親子で受講する。	・景観という新たな視点を学ぶとともに、家庭において景観について話題としたり、紹介してもらったところを一緒に訪問したりして今後の学習に生かせるようにする。	知識・技能 (ワークシート)
3	・地域をめぐり、景観についてとらえなおし、撮影した自慢の景観を紹介し合う。	・身近な地域の風景を景観という視点で捉え直し、自慢の景観を撮影し、なぜそれを選んだのかを伝えあえるようにする。	主体的に学習に取り組む態度 (観察)
4	・学習発表会において川西町、吉島地区の山や川、地名を取り入れた劇内容を考え、他学年、保護者、地域の方に伝える。	・地名や山、川などに実際の名称を使用することで、演じる児童だけでなく他学年、保護者、地域の方も川西町や吉島地区に愛着が持てるようにする。	知識・技能 (劇シナリオ)
6	・川西町や吉島の自慢したいことについて調べ、グループでまとめる。	・グループごとに発信方法を考え、見通しをもって学習を進めていけるよう支援する。	思考・判断・表現 知識・技能 (発表物・原稿)

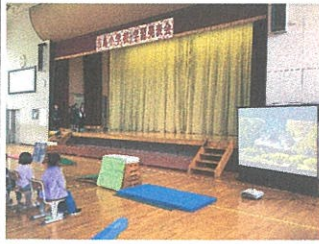
<留意点>

- 県出前講座を保護者とともに聞くことで、児童だけでなく地域住民でもある保護者も景観について関心が持てるようにする。
- それぞれが考えたことを聴き合って思いに共感したり、新たな発見につなげたりできるようにする。
- 現在の景観を大事に思う気持ちを育むとともに、田園風景に欠かせない先人の作った堰や用水路、現在の地域花いっぱい運動などについて理解を深め、美しい景観のために、昔からいろいろな人が努力や工夫をしてきたことにも気づけるようにする。

② 事業実施報告書詳細

学校名 川西町立吉島小学校

時間数	場所	概要	活動記録 (写真)	対象者の反応
1	教室	県出前講座の授業で保護者とともに景観についての理解を深め、川西町や他地域の景観に関心を持つ。	 	・「景観」という言葉を初めて知った児童がほとんどだった。 ・夏休み前だったので、パンフレットやパネルを見て保護者と夏休みの家族旅行先を相談する声も聞かれた。
3	教室 高畠 川西	出前講座の時の「景観」について想起し、視点を確認してから自慢の景観探しに出かける。 ① 黒井堰揚水場 ② 黒井堰遺跡 ③ 虚空蔵山展望台から	①  ②  ③ 	・それぞれの場所で関係者の話を聞くことで、堰や用水路によって水田が潤い、稲作が盛んになったことの理解が深まった。 ・虚空蔵山では、川西町の田園風景の広がりを感じ、撮影することができていた。
4	教室 体育館	学習発表会において劇のシナリオに地区内の山や川、地名をつかったり、町内の景観を表示したりする。		・シナリオを考えた時には、実際に出かけた場所の名称が使われていた。 ・劇の中では、自分で撮影したものでだけでなく、場面

				に合いそうな景観を探して使用する様子もあった。
6	交流センター 各教室	川西町や吉島の自慢したいことについて交流センターに行って調べたり、これまでの学習を振り返ったりして、表現方法を選び、グループでまとめ、他学年、保護者、地域の方に伝える。 ① 交流センターの取り組みについての取材 ② まとめ 紙面のパンフレット発表 ③ ④ まとめ デジタルでの発表 給食の時間に各教室を訪問し、発表を聞いてもらった。 紙面のものは廊下等に設置し、来校者も含め常時見てもらった。	①  ②  ③  ④ 	・交流センターでは花いっぱい運動で多くの地区民がかかわって努力していることに気づくことができた。 ・まとめづくりでは表現方法によって完成時間がまちまちだったが、それぞれ工夫して意欲的に作成していた。 ・他学年への発表でははじめは恥ずかしがる様子もあったが、次第に自信をもって話すことができていた。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点 授業参観や学習発表会を活用し、対象児童だけでなく、他学年児童、保護者、地域の方にも地区のよさを再認識してもらえるようにした。 吉島の主な景観である田園風景は、昔から地域の人々が米の収穫を増やすために、苦労や工夫を重ねてきたおかげであることや、地区内フラワーロードは、交流センターや地区民のねがいや努力のおかげであることにも気づけるようにした。 本校は田園地帯の真ん中にあるため、身近なところだけの自慢だと似たような景観を選んでしまう。そこで、田んぼ以外にも目を向けられるよう、校外学習の場所を設定した。
(2) 実施にあたり苦労した点 当初、県景観パンフレットを参考にして「おすすめ10の景観」パンフレットを作成予定だったが、田園地域の本地区では10か所を見つけるのは困難だったので、景観も含め、「川西町や吉島の自慢を紹介しよう」に切り替えた。
(3) 児童の反応 景観出前講座では、県内のおすすめビューポイント100に見入っていた。撮影する際のヒントにもなっていた。 学習発表会では、「吉島ごんぎつね」で地区内の地名、山や川の名前や画像を使用し、見ていた他学年児童や保護者、地区の方も内容によりひきつけられていた。 学習のまとめでは、グループで内容や表現方法を決めた。デジタルによるまとめに偏ることを想像していたが、紙面による紹介と半々くらいでそれぞれのよさが出ていた。 他学年への発表では、一人一人の自信となり、自己肯定感の高まりにもつながった。
(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化 総合的な学習ではこれまでも地域素材を扱ってきたが、この度「景観学習」を行ったことで、多様な視点から地域学習を進めることができるようになった。 他学級への発表を行うことで、担当外教諭も該当学年の児童理解につながった。 職員の会話の中に、「景観」が入ったり、学校から見えるお気に入りの景観を紹介し合ったりして、会話の内容が広がった。
(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕 児童とともに単元のゴールを見通して進めたい。結果、今回のように事前の計画との変更点も出てくると思われるが、児童主体の活動ができるようにしたい。 今回、地区内にパンフレットを置くことができなかったため、デジタルで作成したものは、学校ホームページから見られるようにするなど検討したい。